

## 平成24年度 第3回道徳教育について考える会 協議概要

日時：平成25年1月29日

13:30～16:30

場所：ピュアリティまきび

### 協議題

- (1) 「道徳教育について考える会 まとめ」の活用方法について  
・活用方法、活用場面、レイアウト 等
- (2) 目指せ「あいさつ日本一」プロジェクトについて  
・取組の具体例、評価指標 等

### (1) 「道徳教育について考える会 まとめ」の活用方法について

#### 《活用場面・活用方法》

- ・子育てが終わった方や行政担当の方にも手に取ってもらえるようにすれば、行政と教育に携わる人が一緒にできることを探っていく手がかりになる。
- ・子ども会の役員会や社会教育関係の研修会などでも活用できる。
- ・各学校園のPTA総会や幼・小・中・高校のPTA連合会などでも活用できる。教職員と保護者が同じものを手に取ることにより、共通の話題で考えを共有するきっかけ作りのツールとなる。また、地区懇談会など地域での話し合いのきっかけにもできると思う。
- ・校園内での教職員間の共通理解や学校間連携において、地域の重点や課題等を話すときの共通の基盤としたり、取組の根拠として活用できる。
- ・図書館や公民館に置いたり、広報誌に載せて地域の回覧板で知ってもらったりすることも考えられる。
- ・県内の大学にも配布し、教職課程などの講義で活用してもらおう。また、教育実習やボランティア活動等に参加している学生に渡して、周知することも考えられる。

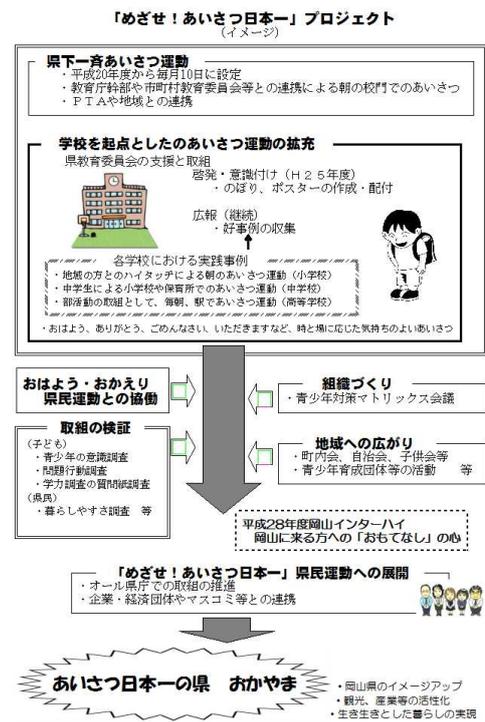
#### 《レイアウト等の工夫》

- ・当事者意識をもってもらうための工夫として、書き込みなどの作業ができるスペースや空欄があるとよい。
- ・意識のずれをなくすための資料として活用するために、例えば「投げかけシート」のような考えるきっかけを与える欄がほしい。
- ・体験活動や地域との連携などの具体例や実践例がついていると、きっかけ作りになり、一歩踏み出すために背中を押す効果が期待できる。
- ・読むだけでなく参加できるように、具体的な項目にして、チェックできるようになるとよい。
- ・子ども向きのまとめもあるとよい。学校を通じて家庭に持ち帰り、よく目にするところに掲示してもらおうようにする。

→ 御意見を参考にして、資料：道徳教育について考える会 まとめ（「心豊かなおかやまっ子」の育成に向けて）を作成した。資料については、県教育庁指導課ホームページに掲載する。

## (2) 目指せ「あいさつ日本一」プロジェクトについて 《取組の方法・具体例》

- あいさつ運動についてのパンフレット等を配布して意識づける。
- 多くの人がいるところでも、しっかり自分の言葉で話せる人を育てることが必要で、そのためにあいさつの取組はよい。声に出しての練習と理論的な裏付けを組み合わせることが大切。
- 場に応じたあいさつの仕方は、年上から教えなければいけない。
- 朝、校門に立ってのあいさつは、だれでもあいさつができる雰囲気作りのきっかけとして必要。その中で、教職員が、あいさつをしたくてもできない子どものもどかしさを理解することに努め、あいさつの意味について話し合いをもつことも大切。
- 校門だけではなく、授業の中でのあいさつや応答の仕方についても、日常で繰り返すと底上げになる。
- あいさつの意味を道徳の時間でも大切に扱う。
- あいさつの意識付けのためには、毎日子どもたちが見えるところにあいさつについての言葉等があるとよい。例えば、生活信条を日めくりのカレンダーにして学校の教室に飾り、毎月決まった日にはあいさつに関する項目を入れるとか。
- あいさつカレンダーの絵や標語の公募など、県民みんなの意識が向くような事業があるとよい。
- 子どもたちのあいさつを育てるには、周りの大人たちが、保護者同士のあいさつ、教職員と保護者のあいさつ、教職員から学校園の周辺を通られる人へのあいさつなど、子どもたちにしっかり見せて、聞かせることが大切。
- 大人が意識して返す。子どもの意識が高いところは、大人の意識も高い。
- 機械的なあいさつにならないように、相手を認めるという視点をもって、あいさつの目的や意義等の知的理解の面と合わせての取組が必要。
- あいさつは、笑顔ですることが大切。「笑顔」というキーワードも入れてほしい。



## 《評価指標》

- 年度末等に行っている学校評価の学校アンケートの中に、あいさつについての項目を入れることで、評価と意識付けになる。
- 評価として、地域コミュニティからの報告も加えてはどうか。
- あいさつと道徳性との関連において、学級集団の状態の客観的把握のときに一緒にすることもできる。あいさつがよくできていると、学級も落ち着いていることが多い。
- あいさつの評価としては、自分で過去を振り返る自己評価が大切。これは、子どもだけでなく、教職員等の大人にも大切なことではないか。
- チェックポイントと自由記述の形式で、子ども自身の記録として残していくとよい。1年に一度、又は学期に一度程度振り返り、次へ生かす評価となればよい。